

大山上池・下池

(おおやまかみいけ・しもいけ)

位置：北緯38度44分、東経139度45分／標高：12m／面積：39ha／湿地のタイプ：淡水湖、ため池／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：山形県鶴岡市／登録：2008年10月／国際登録基準：2、5、6

湿地のタイプ：淡水湖、ため池



冬の下池の景観



渡り鳥が飛来し始めた秋の様子



下池 (左奥におうら愛鳥館)



ハスにおおわれた夏の上池

湿地の概要：

山形県の北西部、最上川と赤川の下流域に広がる庄内平野。その西南部、赤川中流に旧庄内藩の城下町、鶴岡市があり、山形県第二の都市であり、出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)で知られる山岳信仰の地となっている。

大山上池・下池は、鶴岡市の西約9kmにある15ヘクタールと24ヘクタールの二つの小さな池、約400年前につくられた農業用のため池である。池の東側に広がる庄内平野は、東北屈指の米どころである。大山は、『奥の細道』を著した芭蕉に随行した曾良の「曾良随行日記」にもでてくる古い地名で、いまでも酒造りの町として知られている。

上池・下池の西には、八森山(229m)から高館山(274m)へと南北に海岸丘陵がちなり、冬季には、日本海から吹きつける冷たい北西風を遮る、屏風のような役目をしている。

一帯は、江戸幕府の直轄領として森林の伐採が禁じられてきたため、ブナなど

の広葉樹林の良好な自然植生が残され、集水域から二つの池に安定的に水が供給されてきた。そのため、様々な水生植物、魚類、鳥類、トンボやチョウなどの希少種も生息する、生物多様性豊かな生態系と美しい景観が保全されてきた。

6万羽のマガモが飛来する池：

こうした恵まれた条件の上池・下池には、毎年冬になるとマガン、ヒシクイ、マガモ、コガモ、ハクチョウなど2万羽以上の水鳥が飛来し、越冬地・中継地として利用する。なかでもマガモは6万羽の飛来を記録したこともあり、下池にある野鳥観察小屋「おうら愛鳥館」は、シーズン中、バードウォッチャーでにぎわう。

下池を一周できる遊歩道は市民の憩いの場として親しまれている。

両池に生育するハスをはじめとする浮草は地元の「浮草組合」によって管理され、夏には一面がハスの花でうめつくされ、その風景は地域の風物詩となっている。また、ハスの花や葉はお盆の仏花として刈り取られ出荷されている。他にも、春のミズバショウ、カタクリ、秋の紅葉と一年

中にぎわっている。

【マガモ】 全長60cm。雄は頭が光沢のある美しい緑色をしていて、首に白い輪があり、胸は暗褐色で、嘴は黄緑色。俗にアオクビと呼ばれる。日本に飛来するカモ類の代表種で、池や沼、川などで群れて越冬する。夜行性で、田んぼなどで採餌する。

●関係自治体

鶴岡市役所 Tel: 0235-25-2111

●関連施設

鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

Tel: 0235-33-8693

